

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390500035		
法人名	ライフサポート安心企業組合		
事業所名	グループホームみたけ		
所在地	岡山県笠岡市西大島3253番地		
自己評価作成日	平成24年12月2日	評価結果市町村受理日	

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○体力維持のため、体調をみながら毎日、散歩・体操運動等に取り組んでおり、お客様と2日に一度買い物に出かけている。また、地域の行事に積極的に参加し、中高生のボランティアも積極的に受け入れている。</p> <p>み、調理、野菜切り、食器拭き、盛り付け、おしぼり作り)</p> <p>撮取している。</p> <p>丁寧な声かけにつとめている。</p> <p>朝屋の2回召し上がっていただいている。</p> <p>している。・年に数回徒歩20分くらいの公園に遠足に行っている。(歩けるかたは頑張っ歩いて行かれています。)</p> <p>※この自己評価は職員8名個々の評価をまとめて掲載していますので、項目No.1～55は評価に大差がある項目もあります。</p>	<p>○家事療法(洗濯干し取り込)</p> <p>○水分量を気をつけ、一日1300～1500cc</p> <p>○常にお客様の身になって、接遇に気をつけ、</p> <p>○自家製ヨーグルトを</p> <p>○3ヶ月に一度ご家族に宛て手紙を書いている。</p>
---	---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=3390500035-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=3390500035-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ハートバード
所在地	岡山県倉敷市阿知1-7-2-803 倉敷市くらしきベンチャーオフィス7号室
訪問調査日	平成24年12月13日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所の今の思いは「元気で長生き」ということ。能力がある様なら、少し辛いと言われても可能な限り動いてもらう事に重点を置いている。それは実践結果のデータ取りをしっかりと実施し、数値管理をした結果、運動と健康が明確な相関関係にある事の裏付けに基づいている。また数値から職員には利用者の運動不足等を根拠を持って説明出来るし、納得させ易いので、利用者にも動いてもらうというポリシーは事業所全体で徹底している。</p> <p>そうした事から家事療法や生活リハビリに力を入れており、中でも散歩や買い物等、外に出る事、歩く事は他の事業所よりも力を入れている。家族にもそうした方針である事を入居前に説明し、納得頂いた上で入居してもらっている。思い付いたら気軽に近所のスーパーに買い物に行くといった細かく臨機応変に行動出来る点も大きな事業所に無い強みになっている。介護度の上昇と共に利用者が動く事を諦める事業所が多い中、みたけは動く事をセールスポイントすべく努力、工夫を続けている。</p>
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えていく (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・事務所にいつでも確認できるように理念を掲げ、共有し実践している。・実践につなげるように心がけてはいるが、完璧ではない。・定期的に行なわれているミーティングで話し合い再確認している。	理念は「その人らしく生きる事を支援する」「人格を尊重し、その後家族も尊重する」等6項目で構成されており、利用者が元気で長生きできる様にバランスを取りながらケアに当たっている。年間目標はまず職員個々に提出させ、全員で協議して決定している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・日々の近所の散歩時に挨拶、話をしたり、地域の中高生たちがボランティアに来てくれている。・地域のイベントに参加したり、小学校のオープンスクールや運動会などに参加している。・散歩などで地域の人と会話が挨拶程度の事しか出来ない。	管理者が地元出身なので地域との関係は強い。地域の高齢者の茶話会に利用者時々参加し、歌や体操、ゲーム、介護予防の講義受講等をしている。地域の児童生徒の訪問に加え、学校のオープンスクール、運動会等の行事にも積極的に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・今年度より管理者が地域の「まちづくり実行委員」に就任しており、その中でグループホームみたけでの経験をフィードバックしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議で出た意見はみたけの運営に積極的に活かしている。	参加者は家族、民生委員、有識者、学校関係者、行政職員等で構成されている。開催は年一度に止まった。今回は隣接地の小規模多機能の開設決定に合わせて実施し小規模開設の報告をする一方で、地元からは事業所での高齢者サロン開催の依頼を受けた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営に当たって不明な点が出た時は相談している。	市の職員とは小規模開設もあって頻繁に面会するが、とても親身に相談に乗ってくれている。保険制度の質問や相談もし易い。地域包括支援センターは運営推進会議への参加や空きの報告をしている。担当職員が決まっているのでお願い等をし易い。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・拘束に関しては特に注意を払って実践しているが、ボーダーラインがわからない。・玄関は日中の施錠はしていない。・身体拘束の勉強会を職員会議で話し合い理解を深めた。	器具を使う拘束については一切認めていないが、転落防止のベッド柵については一人で通れる隙間と簡単に下りれば拘束には当たらないという見解を示している。「待って下さい」「して下さい」と丁寧だが利用者の意志を抑制してしまう言葉を耳にした。	職員が拘束のボーダーラインに不安に感じるのならば、勉強会等で不安点の解消を図ってほしい。「待って下さい」「して下さい」についても一方的な依頼でなく、利用者を選択肢を与える様な言葉使いの検討を期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・勉強会の参加、会議等で話し合い取り組みをしている。・言葉には気をつけているので、虐待につながりにくい。・お互いに注意し見過ごされないように務めている。・虐待は行なわれていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・昨年、成年後見制度の研修に参加しているが、本年は今のところ参加予定はない。(全員参加している。)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約の際は後々トラブルにならないよう細心の注意を払いご利用者様に説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・外部評価のご家族アンケートの結果を会議で話し合い運営に反映して。・お客様、ご家族のご要望を聞く機会がないのでわからない。・お客様からの要望は全て反映できてない。ご家族からの要望は反映出来るよう努力している。・ご家族に3ヶ月に一回手紙をお出しする。	家族からの意見により連名方式の面会簿を単票にしたり、薬の服用一覧の送付等が改善事例にある。介護計画作成の際に家族から利用者を一般の人と触れ合わせてほしいとの要望を受け、高齢者サロンに連れて行き、その様子は家族にフィードバックした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・会議の時に意見、提案を話し合っている。・運営に関する意見は反映されてない気がする。	職員意見からは、事業所に慣れてきた利用者の食事量増加の提言や、それまで実施していなかった清掃箇所や担当者の決定が採用されている。管理者は職員が面倒だ、薬をしたいという意見は却下する方針で、これをやってみようという意見を求めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・月一回の面談で日々の悩みを相談し、話を聞いているため、改善しつつある。・職員に新しい介護技術を指導している。・残業がほとんどなく、残業しても残業代が出る。・希望休を受け入れて優先的に入れていただける。・もう少しゆとりをもって働きたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・自由に参加できるように案内を提供されている。・会議の際研修に参加されたスタッフの研修発表が聞ける。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・研修やケアマネの支部会に参加し、交流が少しずつ増えてきた。・他のグループホームに研修に参加し交流する機会をつくり、ネットワーク作りに取り組んだ。・過去に他施設と交流したが継続には至らなかった。		

## Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係	・新相手で入所された方には不安を解消し、受けとめ理		
----	--	----------------	---------------------------	--	--

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初めに大がかりな方には不安を解消し、受け入れを促している。・入居当初はお互い混乱することもあるが、傾聴しながら少しずつ関係づくりを深めている。・入居時に本人の話を聞き、コミュニケーションをとるように務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・管理者が聞き、内容をスタッフも共有し支援出来るように努めている。・不安な返答をしないで明るくしっかりとした会話をする。・情報はスタッフで共有するようにしているが、一部の職員しか知らないこともある。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・管理者、ケアマネが対応し、その都度必要に応じたサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・昔の事を良く聞き、料理をしていただいたら、感謝をしながら話をする。・家事を一緒に行ったりして、和やかな日々を過ごしている。時にはお客様からアドバイスを聞いたりすることもある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・面会時に、近況報告をしたり、外出時の写真などを見ていただいている。・誕生日会のご家族の参加。・共に支えられていると感じる家族と、少し疎遠になっていると感じる家族がいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・馴染みの方はあまり来られませんが、ご家族との協力で支援したいと思う。・ご家族が、許可していただける範囲の方に出るだけ来ていただいている。・電話、手紙などでの連絡を取り継ぎ継続的な交流ができるようにしている。・面会の制限があるお客様もいるので、不安に思う人もいるかもしれないが、途切れないように努めている。・人間関係の継続は出来ているが、面会の際初めて来所されるご親友や親戚の方々には身分がはっきりしてから面会している。	馴染みの店に買い物に行く際は行き易く安全な店に限定している。3ヶ月毎に家族に直筆の手紙を出しており、催しには葉書で家族の参加を促している。誕生会は家族の都合に合わせて出来る限り参加してもらい、事業所や食事の内容を知ってもらう機会にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・笑顔で話をすることで、入居者にも伝染し和気あいあいとなるように努めている。・ソファの席、食事の席を孤立にならないよう気のあう同士にするように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・管理者としてはアフターケアの体制は整えているが、今のところ経験事例はない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・出来るだけ、話を聞き入れ家族と相談して希望を把握している。・意向を聞き思いを受けとめれるように努めている。・会議などで話し合い検討し希望や意向の把握に努めている。	昨年から月に一度利用者と職員が1対1で外出に出ている。どこに行きたいかを聞き、聞けない場合は個性から想像して連れて行っている。ラーメン等の希望があった。事業所は欲しい物を買いに買物に出かける事を希望する利用者を積極的に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・生活歴、得意とするものの把握をし、暮らし良い生活に努めている。・入所以前の話聞いて、個人ファイル等に記入し、把握に努めている。・お客様同士やお客様とスタッフの会話の中から情報を聞くことがある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・朝一番に、顔の表情を見ながら、バイタル測定をし体調にあった支援をしている。・会議で意見交換をし、日々お客様を観察、声かけをすることで状態を把握している。・日中の生活の変化などで意見交換している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ケアマネが介護計画を作成するときに、スタッフ、お客様、ご家族から意向を聞き反映している。・会議以外でも話し合い、迅速に対応しているが、小刻みにケア方法が変化しているので、全ては反映出来ていくかどうかは難しい。・会議で定期的に話し合いモニタリングを行なっている。・会議で課題として上げ話し合っ意見やアイデアなどを反映している。	経過記録は管理者が詳細な記録を書くように指導しているので、内容の切り口も多岐に渡り、介護計画立案の際の参考になっている。これまでの実績や得られた成果から体を動かす事に重きを置いた内容を介護計画を盛り込む姿勢は昨年から継続している。	介護計画の見直し間隔が利用者の変化の有無に関わらず一年に固定していて、実情に合致した計画になっていない可能性がある。変化が見られた利用者の計画見直し間隔は、状況に応じ変更するよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・生活の中で変わったことがあれば、記録してスタッフ同士で話し合い、見直し、支援している。・日々の様子が介護記録に記入してあり、情報の共有はできている。・申し送りノートを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・ご家族の意向に配慮しながら対応している。・食事等では気を配りながら、好みに合うように取り組んでいる。・お客様、ご家族の状況に応じて通院など必要な支援は柔軟に対応している。・多機能化には中々取り組めていない。		
29		○地域資源との協働	・地域の行事に積極的に参加している。・休日にあ		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に積極的に参加している。体調に合わせて2日に一回の買い物に行っている。・ボランティアで中高生との交流があり、活気のある時間が過ごせている。・管理者の知り合いで東京で修業した一流美容師の訪問理容を利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・ご家族と相談しながら通院、往診の支援が出来る。・何かあれば担当医にすぐに連絡できる。・ご家族が納得いかない場合はよく話し、協力医以外に希望される時にはご家族に対応している。	近隣の協力医や看護師とは24時間連絡出来る体制が出来ており、協力医の一部は往診に来てくれているので、現在は利用者全員が協力医を受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・常勤ではないが、いつでも看護職と連絡をとり、適切な対応ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院の際には一目で分かる書類を制作している。・ご家族と相談し適切に医療機関との連携ができています。・年に一回、病院の相談員との交流がありそこで話し合いをしている。・直接連絡がとりたいが、中々出来ない。(その際は管理者が対応している。)		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・会議で話し合い、ご家族に終末期の話し合い納得、許可して書類に残すようにしている。・重度化する前にご家族の意向を聞き、支援に取り組んでいる。・ご家族と話し合いホームで出来ること、出来ないことを話し合っている。	この一年で看取りに近い形が一件あった。終末期の利用者だけでなく、元気な利用者の家族に対しても普段から終末期に対する話をする様にしている。看取りに関する文書も用意されており、それを使って説明の上、同意書を取って万々に備えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・スタッフ全員、一昨年に消防署で救命講習を受けている。(全職員、救命救急講習の修了証取得済み)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・避難訓練を行ったり、マニュアルを読んでいる。(平成24年11月13日避難訓練実施)	避難訓練の際には5分強で車いすの利用者も含め完全に外に非難することが出来た。訓練の中で避難用スロープの使い方がわかりにくいという声があったので、後で訓練する予定である。歩ける人がスロープを使う危険性等の問題点も明らかになった。	避難訓練で明らかになったスロープの問題を解決するとともに、職員の通報装置の操作法に対する勘違いの修正の徹底を期待したい。また昼間の実施で構わないので夜間想定の実施の実施も合わせて期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	他のお客様のプライバシーの話をしなくていい、	認知症を理解し、さっき言った、何回同じ事を言う	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<p>他のお客様のプライバシーの話を大目ではない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の声かけ、言葉使いに気をつけ接している。</li> <li>・気を付けた声かけを努めているが、口調がきつかったりすることがある。</li> <li>・誇りを損ねない声かけをしているが、相手を不快にさせてしまった事がある。</li> </ul>	<p>のか等利用者の尊厳を損ってしまう言葉は掛けない様にしている。利用者の呼称は苗字にさん付け、居室入室時のノックを徹底している。トイレ誘導時も他人に分からない様にスマートに対応出来ている。</p>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出来るだけ意向、意見を聞き取り判断し、取り入れている。</li> <li>・コミュニケーションをしっかりと自己決定出来るように支援している。</li> <li>・お客様が希望を表現できなかったり、自己決定出来ない場合がある、その時スタッフが行なっているが希望通りになっているかは判断できない。</li> </ul>		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人のニーズに合わせて穏やかな気持ちで一日を過ごせるように心がけている。</li> <li>・集団生活のなので全ては難しいが、声かけで希望に沿えるようにしている。</li> <li>・起床時間はその方に合わせているが、入浴、食事の時間はほぼ決まっているので、希望に添えてない。</li> </ul>		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に、朝起きてからの髪、髭に注意している。</li> <li>・季節に合った身だしなみに心がけている。</li> <li>・散髪は、3ヶ月に一回。ボタン、ほころびを見ては直す。</li> <li>・洋服をたくさん持っている方には、同じ服ばかりにならないよう心がけている。</li> <li>・清潔な身だしなみを心がけている。</li> <li>・外出するときは帽子、スカーフなど着用していただいている。</li> </ul>		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何が食べたいのか聞き取り、個々に合った食事を提供している。</li> <li>・全員参加出来るように、できることを見つけて協力していただいている。</li> <li>・一緒に買い物に行ったり、調理の準備や片付けを行なっている。</li> <li>・職員とお客様が同じテーブルを囲んで楽しく食事している。</li> </ul>	<p>利用者は女性が多いので食に関する生活リハビリに重点を置いている。男性利用者も初めは綺麗に巻けなかったおしぼりを上手に巻ける様になったり、包丁で切る事を出来る様になった。食事は体重を考慮しながら、その人がお腹一杯という分量で出している。</p>	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々に合わせて、トロミ、刻みを提供している。</li> <li>・栄養バランスが足りない方には、高カロリー補助食を提供している。</li> <li>・夏にはゼリーとスポーツドリンク、冬には温かいスポーツドリンクを提供し、水分量を確保している。</li> <li>・食事量も個々に確認し、体調と摂取量を把握している。</li> </ul>		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夕食後には、義歯洗浄剤を使用し清潔に努めている。</li> <li>・介助が必要な方には液体歯磨きを使用しうがいをしている。</li> <li>・毎食口腔ケアを行なっている。</li> <li>・お客様一人ひとりが出来る範囲で口腔ケアを行なっていて、出来ないところは職員が行なう。</li> </ul>		
43	(16)	○排泄の自立支援		<p>トイレは居室での使用を基本としているので、排泄</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄チェック表があり、時間が空いていれば誘導の声かけをしたり、定時誘導を行ったりしている。・様子を見ながら紙パンツか布パンツに交換している。・	を増やす為に「窓を閉めに行こう」等と居室に誘導し、回数を確保している。トイレでの排泄を重視しており、寝たきりでも一日一度はトイレを使う様になっている。夜間はパッド等を使用して寝てもらっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・毎日、朝と昼に自家製のヨーグルトを取り入れている。・排便2日マイナスから、朝食後にプレーンヨーグルトを食べていただいている。・運動を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・集団生活なので、思う時に入浴するのが難しいが声かけでトラブルなく入浴を楽しんでいる。・体調、ホームの都合、行事などによって変動がある。・男性拒否(職員が)のお客様には、女性スタッフで対応している。	入浴は3日に一度の間隔で入ってもらっている。特にイベント等が無ければ午後に入浴している。入浴時は会話等のコミュニケーションで入浴を楽しんでもらっている。異性介助を拒む利用者には同性の職員が介助しているが、入浴拒否は今余り見られない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・日中も活動的に生活していただくように、体操等を取り入れて夜間安眠出来るように支援している。・寝具は常に清潔に保てるよう心がけている。小さな汚れでもすぐに洗濯し、定期的に干している。・日中はなるべく起きていただくようにしているが、ソファーに座られているとうとうとされているお客様が多い。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・定期薬が切れないようにカレンダーに記入し、確認している。・服薬時に何か変化があればその都度、医師に報告をしている。・個人ファイルに服用薬の説明資料を保管し、全職員が閲覧できる。・服用薬に変更がある場合は介護記録、連絡ノートに記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・行楽、お買い物、地域の行事などに積極的に参加をされている。・月一回の習字を書かれている。・カルタ、体操、歌、テレビ視聴など気分転換の支援をしている。・一人ひとりの喜びや張り合いは把握できていない。・散歩等気分転換を行なっているが、全員が気分転換できているかは不明。		
49	(18)	○日常的な外出支援	・希望に沿うというたいが、難しい時もある。・		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿ってほしいが、難しい時もある。・家族とドライブに出かけたりされている。・買い物に行きたいという利用者にはなかなか応じられていない。・花見、ピクニック、外食、オープンスクール、運動会、地域の行事などに積極的に参加している。・ほぼ毎日散歩に出掛けている。・ご家族の希望で、外出、外泊される方はいる。	事業所のアピールポイントは体力維持の為、体調を見ながら毎日散歩等に取り組んでいる事で、利用者と2日に一度は買い物にも出ている。事業所は普段散歩をする、しないで利用者の体力差が大きい事を実感しており、訪問月は一人平均14.5回散歩に出ている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・ご自分で少額のお金を管理されてる方がいるが、他の方は預り金より購入したりしている。・欲しいものを尋ねるが、欲しいものはないと答える方が多い。・買物の出来る方は、買物に出掛けられご自分で支払いされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話の希望があれば、常識の範囲内の時間にかけていただいている。・手紙はご本人に渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・毎日、トイレ掃除、部屋掃除を行っている。窓を開けて日光を取り入れ、快適に過ごせるように工夫している。・景色を眺めながらソファで日光浴ができて喜ばれている。・不快な刺激はなく個人それぞれのスペースが確保されている。・木調の床の作りなので温かみがある。また廊下は間接照明を使用し、居室も明るすぎないように配慮している。臭いもほとんどなく、かなり気をつけている。(こまめに乾燥、汚物は新聞紙にくるむ、消臭スプレーなど)	出来る限りゆったりできるスペースを確保する様にしている。壁面はごてごてと飾らない様にも心掛けている。ボランティアや利用者の作品等は入口にまとめて置いている。杉板床は箒で、カーペットやフローリングは掃除機で毎朝清掃している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・仲の良い方同士で座っていただき、気持ちよく日常生活を送れるように工夫している。・ゆったりとした時間が取れている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ご家族との写真や、誕生日会の時に作った色紙等を飾っている。・入居時には、自宅で使い慣れた物や、家具等を持って来ていただいている。	ベッドは事業所で用意しているが、希望により畳に替える事も出来る。入居後落ち着かない人には馴染みの家具が効果的だが、落ち着いた人はそうでもない。実際に持ち込んでいる人は少ない。温度湿度はエアコンのタイマーや職員の感覚で調	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人、居室の前には自筆の名札を掲示している。</li> <li>居室内に手すりをつけたり、トイレにもはねあげ式の手すりをつけて安全に配慮している。</li> <li>「できること」を重要視し、ご本人にできることは時間がかかってもして頂いている。</li> <li>トイレ、洗面台は居室に設置され、安全で自立できる生活を送れるようにされている。</li> <li>「できること」や「わかること」おもに洗濯干しや食事の手伝いが多い。</li> </ul>		